



月刊

# 社協だより

平成30年  
1月号



発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部  
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826

## 第六回狩留家新春文化講演会 「終活」論議高まる

一月六日、「これから  
の「狩留家」と医療・介  
護の関り方を考える」と  
言う表題で新春文化講演  
会を開催しました。百十  
人余の方が参加され、先  
ず安佐市民病院の医療ソ  
シヤルワーカーの宗田知  
子さんが「住みなれた狩  
留家で暮らし続けるため  
に」と言うテーマで講演  
され、続いて副院長の土  
手慶五先生が「本人と長  
男と嫁から始める縁起で  
もない「終活」の話」と  
言うテーマで講演を頂き  
ました。

その後、十組に分かれ  
てワークショップを実施  
しました。十九人のケア  
マネージャーさんや包括支  
援センターの職員さん達  
に司会、進行役を勤めて  
頂き、各グループともに  
「終活」について大変活  
発な論議がなされ、時間  
を延長する程でした。  
「終活」については、暮  
れの十二月二十五日に日  
経新聞の一面を始め全四  
面で、講演会翌日の一月  
七日には中国新聞の一面  
で大々的に報じられ、こ

の狩留家の「終活」につ  
いての講演会の模様も一  
月九日にRCCテレビで  
大きく報じられました。  
それ程今日、「終活」論



狩留家文化講演会  
2018.01.06

議は大切な話題となつて  
いるのです。

「終活」と言えば遺産相  
続、墓・仏壇等生前に整  
理しておくべき多岐にお  
たる内容があります。が、  
この度狩留家では「終末  
期医療」を中心に考えま  
した。この問題を解決す  
るために、狩留家の医療・  
介護の環境整備はいか  
にあるべきか、施設等  
が狩留家に必要とあれ  
ばどのような機能と規  
模のものを誘致すれば  
良いのか等を検討する  
必要があります。あわ  
せて、最期まで安心し  
て狩留家に住み続ける  
ためには向こう三軒両  
隣の助け合いが大切で  
す。狩留家のあるべき  
方向性を皆で考えてい  
きましょう。(会長記)

## はやくいよいよ お正月

狩留家保育園 園長 本多享子

昨年十二月二十五日に  
狩留家地区社会福祉協議  
会の御協力で、しめ縄つ  
くりを行いました。

しめ縄の由来や、作り  
方を教えていただいた後、  
いよいよ本番です。「む  
つかしい」「どうする  
ん」と、いつていたこと

もたちに、地域の皆様は  
優しく声をかけ、手を取  
り教えてくださいました。  
少しずつやり方が分かる  
と「できた!」「分かつ  
た!」の笑顔が一杯にな  
りました。縄をない、お  
飾りをつけてもらって完  
成したしめ縄を手に、得

## 狩留家のとんど

意満面!  
お迎えの時に、真っ先  
にしめ縄を手に、お家の  
人に「あのね、神様がね  
…」と教わった話を伝え  
るすがたに、子供たちだ  
けでなく、若い保護者の

皆様にも、日本の伝統文  
化を伝える良い機会となっ  
たことを感じます。しめ  
縄づくりのために色々  
ご尽力くださった皆様に  
感謝の気持ちでいっぱい  
です。

広島地方では、一月の  
中旬、無病息災・五穀豊  
穡を願う「とんど」が行  
われます。狩留家でも昔  
から子供や大人が沢山の  
竹を集め、田の中や空き  
地に組立て、門松やしめ  
飾り等、正月の装飾品を  
投げ入れ、火つけます。  
炎はたちまち新年の風  
にあおられ、天高く舞い上  
がります。子供達が、竹  
の先に付けた書き初めを  
炎の中に入れると、書き  
初めは炎と共に天高く舞  
いあがります。これが高  
ければ高いほど書いた人  
は字が上手になると言わ  
れています。集まった人々  
は、パンパンという竹の  
破裂する音を聞きながら、  
火を囲み、新年の挨拶や  
酒をくみ交わします。や  
がて竹は焼け落ち、強い



十一月資源ごみ売上 二万円